

平成24年度第1回東ト協青年部研修会・当日の様子

1. 開催日時 平成24年9月8日（土） 15:00～18:30

2. 開催場所 東京都トラック総合会館 6階研修室
 （東京都新宿区四谷3-1-8）

3. 参加人数 27名

4. テーマ 「部下とのコミュニケーションがうまくなる“話し方”を学ぶ
 ～相手を動かす話し方を身に付ける～」

5. 講師 株式会社イーロジット
 コンサルタント 清水 一成 氏

6. 次第

（1）開会挨拶

司会の東ト協青年部・前田研修委員長（世田谷支部・㈱若運）が開会挨拶

（2）東ト協青年部・武井本部長（文京支部・㈲武井物流）挨拶

①本部長という役職になり、皆の前でお話することが多い。でも、緊張してしまい、自分の言いたいことの1割も言えてないと感じることもあることもあるため、皆と一緒に勉強をし、ヒントを掴みたい。

②また、例年、平日の夜に開催しているが、参加しやすいような日程を考慮し、今回、土曜日の開催にしたことについて話した。また、今回は、青年部会員企業の現場の責任者の方にも参加して頂いており、皆さんの成長に役立てて頂き、また、自社に持ち帰って頂ければと話した。

（3）研修内容

①他己紹介

研修の序盤で、参加者が2人1組となり、お互いにインタビューを5分間行い、氏名、会社名と部署、仕事内容、今年の目標等をヒアリングし、その後、代表として3組（講師が指名）が前に出て、自分のではなく、相手の紹介（「他己紹介」）を発表した。

【インタビューの様子】



【発表の様子】



②講演内容

◇研修に取り組む姿勢

- ・勉強は、堅苦しくやるものではない。楽しくやると、記憶に残りやすく、定着しやすいので、楽しんで参加して頂きたい。

◇上手く話す・伝えるためのポイント

- ・無難な話ではなく、自分にしかできない話、特に失敗談を入れて話す。
→失敗談を隠す人が多いが、これを入れると、親近感が沸き、相手に伝わりやすい。社会人経験、特に失敗経験の棚卸しをしておくが良い。
- ・過去・現在・未来という時間軸を意識して話す。
→よく、現在のことを言っているのか、過去のことを言っているのか、よくわからないような話をされる方がいるが、例えば、「過去にこういう失敗をして、現在はその失敗がこういうふうになんか活かされていて、将来はこうして行きたい」というように、きっちり分けて話すが良い。
- ・大事なことや伝えたいことは、最初に、短めに話す。
→遠回しに話す方が多いが、理論・理屈よりも「つまり、こういうこと、こう思っている」ということを短めに話せると良い。だらだら長く話そうとすると、伝えたいことが飛んでしまうことがあるので、注意が必要。
- ・話す相手のメリットを明確にする。
→よくコスト削減等が社内で掲げられるが、それにより、社員達にどう還元されるか等、メリットを明確にする。
- ・朝礼など、複数の部下達の前で、考えや想いを伝える場合、原稿を作成すると良い。
→書くこと＝話すことなので、書かないと話せない。熱のこもった話しは相手に伝わるので、そうなるように周到な準備が必要。その時の思い付きで話してしまうと、場当たりのようになって、相手に届かない。
- ・様々なポイントを踏まえたうえで、数多く話す・伝える経験をする。

【講演中の様子】



③参加者が、「一番大切にしている言葉」と、なぜ、その言葉が大切かの物語を15分で作成し、それについて発表を行った。（発表時間は1人3分間。）

◇参加者の方々から出た「一番大切にしている言葉」（抜粋）

- ・「本気の時には腹をくくる」
→会社を継ぐことを決めたときに感じた言葉
- ・「気を付けて行ってらっしゃい」
→ドライバーを送り出すときに、事故なく帰ってきてほしいという想いで、毎日かける言葉
- ・「感謝」「思いやり」
→仕事で非常に忙しい中で、営業所のメンバーに支えられていると感じたときに思った言葉
- ・「雇って頂いてありがとう」
→管理者として仕事を行う中で、精神的に落ち込んでいる時に、従業員からかけられた言葉
- ・「苦言即ち、世間の評価」
→宮本武蔵の言葉。例えば、クレームがあった時などに感じる言葉。クレームが1件あった場合、心の中で思っていて言わない人は、その10倍、20倍くらいいると捉え、社員にもこの理念を伝えている。

- ・「現状維持即ち、これ脱落なり」
→社長が言っていた言葉。この言葉を頭に置き、常に前向きに仕事をしようとしている。
- ・「自分の本当にやりたい仕事なら、辛いことも乗り越え、楽しんでいける」
→自らの経験を踏まえ、従業員にもかけている言葉。

【原稿作成の様子】



【発表の様子】



(4) 閉会あいさつ

司会の東ト協青年部・前田研修委員長が閉会挨拶を行った。